

千葉ロータリークラブ
2019-20年度
地区補助金を活用した
奉仕プロジェクト

子供の貧困対策にむけて
～フードバンクプロジェクト～

プロジェクトのきっかけ

新入会員が自分の会社で取り組んでいる
フードバンクへの協力を
新入会員卓話や会員オリエンテーション等で
会員へ紹介したことがきっかけ

日々の食事にも困る子供たちがいる
子どもの7人に一人が貧困状態にあるという現実
子どもたちに食事を提供しているこども食堂がある
会社や家庭で眠っている食材を集め
こども食堂に提供しているフードバンクがある
皆さんも食材を提供してください と紹介

ロータリアンとしての使命

**ロータリーの基本理念 = 『奉仕の理念』
他人のことを思いやり、他人の助けになること**

**日本の子どもの7人に1人は、「貧困」状態
子供達を救おうとの呼びかけが
クラブを動かしましたクラブを動かしました。
多くの賛同の声からクラブとして
子供の貧困対策のための
プロジェクトを行うことになります**

子供の貧困対策がなぜ必要なのか？

日本でも子供の7人に1人が貧困という事実

子どもの貧困(こどものひんこん)とは
必要最低限の生活水準が満たされておらず
心身の維持が困難である絶対的貧困にある、
またはその国の貧困線(等価可処分所得の中央値の50%)以下の
所得で暮らす相対的貧困にある
17歳以下の子どもの存在及び生活状況を言う
2008年10月に「Growing Unequal? Income Distribution and Poverty in
OECD Countries」で子どもの相対的貧困率を公表。
2005年の日本の子どもの相対的貧困率は14%であった
(ウィキペディアより)

子供の貧困対策がなぜ必要なのか？

① 貧困が子供に与える影響

貧困のため炭水化物に偏った食事が
子供の脳の成長に影響

前頭葉が一般の同年代の子供の脳に対し10%萎縮
心に不安を持って育つと同じく 前頭葉が10%萎縮

→**学力の低下**

子供の貧困対策がなぜ必要なのか？

② 貧困のループ

生活保護家庭は

現在3世代続けて給付を受ける家庭が増えている。

さらに食事が十分にとれない子供たちは

空腹のため勉強に集中できない。

家の中で勉強する場所がない、

他の子供と同じ学習教材を手に入れるお金がない。

就職するにも学力が低い・義務教育しか教育が受けられない(中卒) 保証人がいない等の理由から

収入の低いところでしか働けない。

→ 貧困家庭からぬけだせない

子供の貧困対策がなぜ必要なのか？

③ 外部からの支援の必要性

子供の貧困をなくすことは

その子供のためだけでなく我々のためでもある。

納税者の世帯における子供の数は1世帯あたり平均1.2人

非納税者の世帯における子供の数は1世帯あたり平均3人

何もしなければ貧困のループは繰り返され

貧困家庭が自然と増えることは上記統計から明らか。

貧困家庭を減らすには子供の貧困に手を差し伸べ

子供の学力を向上させ就労支援をすることで

貧困のループから抜け出させることが必要。

子供の貧困の対策として今行われていること

①子ども食堂

「子どもやその親、および地域の人々に対し、無料または安価で栄養のある食事や温かな団らんを提供するための日本の社会活動」(ウィキペディアより)

②フードバンク

食品メーカーや外食産業などでは、品質には問題がないものの、包装不備などで市場での流通が困難になり、商品価値を失った食品が発生する。従来は廃棄されていたこうした食品の提供を原則として無償で受け、生活困窮者を支援しているNGO・NPO等の市民団体を通じて野外生活者や児童施設入居者などの生活困窮者に供給すること(ウィキペディアより)

子供の貧困の対策として今行われていること

③フードドライブ

家庭で余っている食べ物を学校や職場などに持ち寄りそれらをまとめて地域の福祉団体や施設、フードバンクなどに寄付する活動(セカンドハーベストジャパンHPより)

④ 子供宅食配

生活の厳しいひとり親家庭などのご自宅に1-2ヶ月に一度食品を届け、それを切り口に子どもの貧困問題を解決する新しいセーフティネットを創る試み

⑤ 内閣府 子供の貧困対策

子ども未来応援基金

千葉ロータリーとしていま何ができるのか？

無理なく継続していける内容の奉仕プロジェクトとは？

比較的取り組みしやすいフードバンクへの食材提供から取り組み時間をかけて子供の貧困対策の意義を会員に浸透その後子供食堂への参画につなげていけないか

2019-20年度 奉仕プロジェクトとして

① 会員向けフードドライブ

会員企業の災害備蓄食料を消費期限の少し前にご提供いただき子供食堂等の団体に活用していただく

② 一般への子供の貧困対策の広報とフードドライブ

不特定多数の方を対象にイベント等に出店し子供の貧困対策についての必要性をパネル展示。

家庭にある賞味期限が近い食品の提供を呼びかけ回収子供食堂等の団体に活用していただく。



地区補助金の活用方法

- ①子どもの貧困対策についての啓発チラシ・フードドライブ実施の案内チラシ作成
- ②会員企業向け食品回収BOX 購入
- ③イベント出店のための備品購入
- ④イベント時の啓発パネル・ロータリー広報パネルなどの作成費



結果と応用

結果

- ① 会員全員参加による食品の回収
⇒ 計約3トンの食糧 クラブの活性化
- ② 家族や従業員のロータリー活動の理解と協力
⇒ フードドライブをするため活動内容を説明したことによる

応用

- ① コロナ禍におけるひとり親支援としてフードバンクへの支援実施
- ② 今後 関連事業への発展の可能性
子供食堂支援 ⇒ 飲食関連会員による職業奉仕
子供食堂を利用する青少年向け寺子屋事業など ⇒ 青少年奉仕

コロナ禍におけるひとり親支援として フードバンクへの支援実施(2020年5月)

A) コロナのため中止となった例会での食事の費用の一部を

寄付の原資としてフードバンクへ資金使途を指定した寄付を実施

寄付の資金使途

① コロナ禍により急増した食材配布のための資金

急増する食材配送のため人手不足に陥っているフードバンクちばの
体制の強化のための資金

フードバンク千葉がコロナ渦で支援をしているひとり親世帯は37世帯
それを含めて、フードバンク千葉では、現在も700世帯以上に食糧援
食材はフードバンク千葉さんがフードドライブにて自力にて調達、
千葉ロータリークラブでは、それを発送する費用、運営費等を支援

コロナ禍におけるひとり親支援として フードバンクへの支援実施(2020年5月)

B) 千葉クラブ会員の中から飲食店を営む協力企業を募り 共通食事券を発行する事業の運営

フードバンク千葉に依頼しひとり親世帯に配布する食材の宅配BOXの中食事券と千葉ロータリクラブの手紙を封入し食材提供先である貧困世帯に配布

食事券を通じ食事を提供するだけでなく
外食経験の少ない子供たちに外食を通じ
外食の方法、マナーを学ぶ機会を与える。

あわせ今般のコロナで売り上げが減少した飲食店の支援を行う。





自分だけでなく、人のために
よいことをする喜びのために
私たちは生きるべきです

— アーチ・クラフ、1929年



奉仕の理念(The Ideal of Service)

→サービスという考え方

→「他人を思いやり、他人のためになることをしよう
という考え方」 by チェスリー・ペリー

この実践が、「4つの優先項目」の
ローテーションのスタート

